

エクスプローラープログラム 報告書

インドネシア、マカッサル（2013年8月18日～2013年11月17日）

山中 潤

京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科
東南アジア地域研究専攻 生態環境論講座 1 回生

JASSOの支援を受けエクスプローラープログラムでインドネシアのマカッサルに派遣された。今回のインドネシアへの渡航では、まずインドネシア語の習得を第一の目標とし、現地でのフィールドワークにおいて不可欠な言語力の獲得を目指した。更に第二の目標として、研究の検討対象地に赴き、現地でしか分かりえない情勢や社会・経済・生態的背景についての情報を得る予備調査を計画していた。具体的には、研究対象である **REDD+** (**Reducing Emissions from Deforestation and Forest Degradation in Developing Countries**) が現地ですどのような段階に至っているのか、どのような文脈を持つ対象地で実施されようとしているのか、という点について情報を収集する予定であった。以下、このような目標をふまえて、実際現地ですどのような語学学習・予備調査を行ったのか述べる。

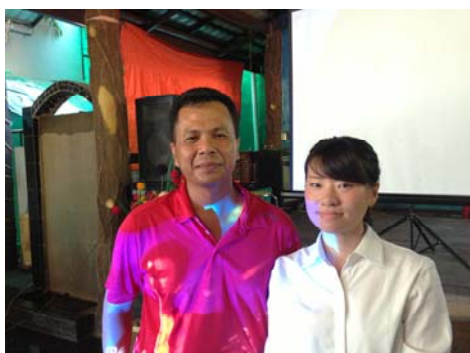
第一の目標である語学であるが、これはスラウェシ島南部にあるマカッサルに二ヶ月間滞在して学習した。基本的な文法や単語については大学院での授業で勉強していたため、現地では実践的な単語や表現を覚えたりスピーキング力を向上させることに努めた。カウンターパートであるハサヌディン大学の **Andi Amri** (アンディ・アムリ) 先生にインドネシア人の学生をご紹介頂き、テキストを使いながら学生と会話練習を行った。また、他のインドネシア人の学生と食事や外出をする中でスピーキング力及びリスニング力を身に付けたり、宿泊先を大学の寮からホームステイに変えることで、日常的に現地の人々と現地という言葉で話す機会を作った。日常生活で用いる単語や表現を覚え、すぐ使える環境に入れたことは語学学習において非常に効果的なことだった考える。このような学習の結果、未だ流暢とは言えないが、日常会話は可能なレベルに至った。また、インドネシア人の先生や学生とのメールでのやり取りも、複雑な内容でなければインドネシア語で行うことができるようになった。

次に、第二の目標である予備調査に関しては、カリマンタン島中央カリマンタン州のパランカラヤ周辺で行った。中央カリマンタン州は、自身の研究対象である **REDD+** のパイロット州として政府から認定されており、州政府によるパイロットプロジェクトの実施や **REDD+** 実施の戦略を作成している。今回は、**REDD+** が現地ですどのような段階に至っているのか、そしてどのような文脈を持つ対象地で実施されようとしているのか、という点を知るために、州都のパランカラヤにある **REDD+** 協働事務局で話を聞き、また実際

にプロジェクトが行われている3つの村を訪問した。3つの村ではそれぞれ異なるプロジェクトが行われており、ジャビレン村では「コミュニティによるゴムプランテーションと間作を通じた持続的な泥炭地管理技術の開発」、ヘンダ村では「女性のためのラタン（籐）手工芸品トレーニング」、そしてムンタレンドゥア村では「ヒラタケの栽培の促進」プロジェクトが行われていた。各村では、プロジェクトの内容、プロジェクトに対する認識や参加のあり方などについて情報を集めると共に、背景的情報となる人口や民族構成、生計手段、森林や土地の利用や管理のあり方などについても大枠の情報を得ることが出来た。また、同じ中央カリマンタン州で実施されている **KFCP (Kalimantan Forests and Climate Partnership)** というプロジェクトが、住民との土地所有や土地利用を巡るコンフリクトなどが原因となり中止されたという情報を得た。「REDD+が地域住民に与える負の影響」を研究したいと考えていた私にとっては、研究を進める上で非常に重要な情報であった。今後、まずこのコンフリクトがどのようなものだったのか、そしてどのような背景要因に起因しどのような過程を経て顕在化したのか、という点について研究を進めていきたいと考えている。

このように今回の渡航では、インドネシア語の習得と予備調査という二つの目標を達成することができた。今後、今回の渡航で得た語学力と情報を活かして更に研究を進めて行きたい。

ⁱ REDD プラスとは、2005年に開催された国連気候変動枠組条約 (United Nations Framework Convention on Climate Change: UNFCCC) の第11回締約国会合 (Conference of the parties: COP11) で提案された「途上国の森林減少・劣化に由来する排出の削減 (Reducing Emissions from Deforestation and Forest Degradation in Developing Countries: REDD)」に、COP13の結果から「森林炭素ストックの保全及び持続可能な森林経営ならびに森林炭素ストックの向上 (Conservation of Forest Carbon Stocks, Sustainable Management of Forest, Enhancement of Forest Carbon Stocks in Developing Countries)」という考え方を追加したものである。
(REDD+研究開発センターより)



(カウンターパートのアムリ先生)



(ハサヌディン大学)



(ハサヌディン大学の学生たち)



(ホストファミリー)



(中央カリマンタン・Henda 村の村長)